

氏名	池田 全之 IKEDA Takeyuki
所属 職名	人間文化創成科学研究科人間科学系 准教授
学位 専門分野	博士(教育学) /Doctor (pedagogy) 教育哲学/Educational Philosophy
URL	
E-mail	ikedatakeyuki@ocha.ac.jp

### 研究者キーワード / Keywords

教育哲学  
ドイツ観念論  
フィヒテ、シェリング  
フランクフルト学派  
アドルノ、ベンヤミン

Philosophy of Education  
German Idealism  
Fichte, Schelling  
Frankfurt School  
Adorno, Benjamin

### 主要業績

「労働的人間形成の論理とその今日的意味について?自我の自己形成を巡る1800年前後のドイツ思想の一断面」, 教育哲学会編『教育哲学研究』第101号, pp.31?37, 2010年5月

「昨今の教育改革の動向とヤスパース哲学—国家の統治性格の現状に包越者存在論が示唆するもの」, 日本ヤスパース協会編『コムニカチオン』第17号, pp.33?34, 2010年12月

「ヨーロッパ精神の〈起源〉への追慕による〈過去の克服〉?ハイデガー、リット、ヤスパースの場合」, 対馬達雄編著『ドイツ 過去の克服と人間形成』, pp.117?156, 昭和堂, 2011年3月

### 研究内容 / Research Pursuits

2010年度は、戦後ドイツにおけるナチスの過去の克服のあり方を検討した。具体的には、まず、過去忘却の典型として後期ハイデガーの技術論を明らかにした。それに続いて、リットの自律概念とヤスパースの理性の哲学を解明した。そして彼らの思想が、現代の歴史認識に示唆するものを検討した。

In 2010,I investigated the way of overcoming the sinful past of Nazis-period after World War ? in Germany. Concretly speaking, at first,I considered about Heidegger's theory of technology as typical case of forgetness of crimes which Germay committed in t

## ■ 教育内容 / Educational Pursuits

2010年度は、学部段階の授業においては、フーコーの権力論、アドルノの非同一性の哲学、シェリングの道徳思想、ベンヤミンとハイデガーの時間観を、現代の教育問題と絡めながら概説した。大学院段階では、後期ハイデガーとヤスパース思想を中心に、ドイツにおけるナチスの過去の克服の問題を論じた。演習においては、デリダの『差延』を取り上げた。

(For undergraduate course) I treated outline of Adorno's theory of dialectic of enlightenment, Schelling's ethic, and the understanding of Time of Heidegger and Benjamin, relating these theory to our educational problems. (For graduate course) I focussed on

## ■ 研究計画

## ■ メッセージ

教育思想研究というと、難しいとか現実から遊離していると一般には考えられています。たしかに教育思想の研究の場合には、二次文献を参照しながら、地道に昔のテキストを読み進めることが基本になります。けれども、そうした読解も、現代についての先鋭な問題意識がなければうまくいくものではありません。古典的なテキストを使いながら「今」を考えることが大切なのです。ですから、自分の狭い関心にだけ囚われるのではなく、視野を広く持つようにしてください